

『切磋琢磨』の精進貫く

究極のファブレス企業

(詩経)という中国最古の詩歌集に「切するが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如く」なる一節がある。武公という王を称えた詩で、この王は生涯自己啓発を怠らず、国中から諫言を求めた名君だった。「切磋」とは動物の骨や角を細

工するとき、切ったり研いだりすること。「琢磨」とは玉や石を細工するとき、削ったり磨いたりすること。転じて現代では、地道な努力の積み重ねを指す言葉だ。アドバンスデザインテクノロジー(株)代表取締役・高橋純樹氏は、「ユビキタス社会」という時代の変化に対応し、独創的なシステム製品の企画から開発、販売までをトータルに提案している「究極のファブレス企業」。これまで育み培ってきた技術力を結集し、モバイルインターネット、ブロードバンド環境、デジタル情報家電分野、カーエレクトロニクス分野を主軸に、その中核となるシステムLSIを始め、デジタル映像伝送・記録機器や映像機器、セキュリティ機器…まで、「常に努力を怠らない技術者集団」ならではの『切磋琢磨』で着実な成長と進化を続けてきている。豊かな情報社会への水先案内企業として新しい発想と視野で高い技術の創造を目指す社員一人ひとりの気構えに怠りはない。まさに「切するが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如く」の精進ことこのない技術開発力を自社の生命線としてチャレンジし続ける…それがまた成長に弾みをつけている。

東京都府中市寿町1-1-3